

第4期鎌ヶ谷市地域福祉計画 進捗管理・評価シート(令和4年度事業)

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
基本目標1 地域で支えあう取組を推進します										
施策1 地域福祉を推進する意識啓発と担い手育成を進めます《重点施策》										
取組内容 01]市民に対する意識啓発や参加促進、人材育成等の総合的な支援										
1	市民に対する啓発の推進	市民活動推進課	地域づくりコーディネーター養成講座実施回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	10 10	回	①地域活動に興味がある市民を対象に、多様な主体の橋渡しを行う「地域づくりコーディネーター」の育成を目的とした講座「かまがや地域づくりコーディネーター養成講座2022」を10回実施した。 ②その結果、延べ105人の参加があった。	A順調に進んでいる	①引き続き「地域づくりコーディネーター養成講座」の受講者がコーディネーターとして活動しやすい環境を創出できるよう、市が「地域づくりコーディネーター」を認定する制度を実施する。 ②市民の方がボランティア活動等を行う際は、必要に応じて市民活動推進センターやコーディネーターへの相談などをご活用いただきたい。	B継続
		社会福祉協議会	ボランティア育成に関する講座実施回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	3 4	回	①感染症予防のため、参加人数を制限したほか、引き続き在宅時間を利用したボランティア体験メニューを加えた。災害ボランティア養成講座は、災害時のスマートフォンの活用法の習得を目的に、対象者をシニアに限定、人数を制限し複数回開催した。 ②在宅時間を利用したボランティア活動では幅広い年齢層の参加があった。また、SNSを活用した講座では市民の関心が高く、今後の講座開催のヒントとなった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①これまで主にチラシで情報を発信してきたが、PCやスマートフォンの利用者の増加に伴い、それらを活用した情報発信にも努める。 ②各種講座開催にあたり、講師として資格や経験のある市民の協力を呼びかけ、多くの市民の参加につなげたい。	B継続
2	ボランティアの活動しやすい環境づくり	市民活動推進課	情報提供数(チラシ掲示、HP記事掲載)	R3 R4 R5 R6 R7 R8	266 294	件	①ボランティアが活動しやすい環境となるよう、市民活動推進センターにおいて、チラシやポスターの掲示、HPの記事掲載などを行い、市内外のボランティア関連情報を周知した。 ②チラシの掲示(272件)、HPの記事掲載(22件)などを行い、ボランティア活動の情報提供やボランティア、市民公益活動、地域活動を希望している人をつなぐ窓口を充実させた。	A順調に進んでいる	①広報かまがや、ホームページ及び市民活動推進センターでの情報発信に加え、SNSなどのデジタルツールを用いて、市主催事業の周知に努める。 ②市主催事業を実施する際のチラシ等の掲示にご協力いただきたい。	B継続
		市民活動推進課	ボランティアに関する相談件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	80 60	件	①ボランティアが活動しやすい環境となるよう、市民活動推進センターにおいて、市民や団体などを対象に相談事業を行った。 ②市民公益活動などに詳しい専門相談員(協働アドバイザー)による相談事業を実施し、延べ60件の相談を受け、活動における課題整理や解決のための助言などを行った。	A順調に進んでいる	①市民公益活動団体等が抱える課題は変化しているため、多様な相談に対応できるよう体制を整える必要がある。 ②ボランティア活動などで課題を抱える市民や団体がいる場合には、市民活動推進センターで行っている市民公益活動相談なども積極的にご活用いただきたい。	B継続
		社会福祉協議会	ボランティアに関する相談件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	2,834 2,962	件	①感染症予防のため、活動の自粛が続くなか、福祉に関するボランティア窓口として、相談・連絡調整等に努めた。コロナ禍の活動情報として、年齢や活動場所等問わず参加できる「千羽鶴つなげるボランティア」、「編み物ボランティア～高齢者へ贈るマフづくり」、使用済み切手やウエス用布等の収集について周知した。 ②コロナ禍で在宅時間が増えたことにより、市民のボランティア活動への関心が高まり、在宅時間を活用した体験のほか、ボランティア活動希望の相談が多く寄せられた。	A順調に進んでいる	①感染予防に努め、市民がボランティア活動を通じて、人と出会い、つながり合い、学び合い、地域活動を通して社会参加できるよう市民に多くの体験メニューを提供し、ボランティア育成に努める。 ②きめ細やかな情報発信と、ボランティアならびに市民とのコミュニケーションを図り、ボランティアセンターの周知に努める。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
3	地区社会福祉協議会の活動	社会福祉協議会	ボランティア育成事業数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	15 30	回	①新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、事業によっては規模の縮小を図りつつも、参集型の事業も開催した。 ②地区によっては地区社協、民生委員・児童委員、地区ふれあい員の交流を持つ場をつくることができ、顔の見える関係の構築を図ることができた。また、健康づくりに関する事業を開催することで、地域活動の担い手となる高齢者の体力の維持向上を図るとともに、ボランティアの意識啓発につなげることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①事業の再開はできたが、新型コロナウイルス感染症に対する考え方も多様化するなか、地区社協としては最大限の安全対策を講じる必要がある。このことに伴い、参加人数の制限もしているため、事業に参加したくても参加できない方も出てきていることが課題である。 ②事業へ参加された後、地区社協活動や自治会活動等地域活動への積極的な参加をお願いしたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
4	子育てサポーターの人材育成	子育て支援センター	サポーター研修の実施回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	9 9	回	①養成講座を1回開催し、6名の新規サポーター登録があった。 また、子育てサポーター研修は、感染症の感染拡大により7～9月の開催は中止となり、年9回開催した。 ②2月に機中八策講座、3月に外部講師を招いての講演会を行い、サポーターの質の向上を図った。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①定期的な研修を開催し、保護者との関わり方や相談事案への寄り添い方などサポーターの質の向上が必要である。 ②地域の子育て支援拠点において活動するサポーターへの参加・協力をさせていただきたい。	B継続
5	ファミリー・サポート・センター事業	こども総合相談室	提供会員数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	164 164	人	①子育て世帯が多く利用する施設などへの会員募集ポスターの掲示を行った。また、ひとり親世帯への利用料助成金の対象者を拡大した。 ②提供会員数は前年度と同数であった。ひとり親家庭への利用料助成については、令和3年度の利用者が7名であったのに対し、令和4年度は9名が利用しており増加している。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①提供会員を募集し増員を図るとともに、研修等によりヒヤリハット等の危機管理能力の向上を図り、引き続き、安心・安全な支援体制を整備していく必要がある。 ②サポートを提供することができる方、サポートが必要な方が地域にいた場合には案内をお願いしたい。	B継続
6	ふれあいサービス事業	社会福祉協議会	会員数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	59 54	人	①昨年度に引き続き、感染症対策に配慮しながら、会員相互の安心・安全対策を講じ、可能な範囲で会員の自立に向けた支援を行った。また、協力会員向けの研修会を6回開催したほか、チラシやパンフレットを更新し、会員募集と事業の啓発に努めた。 ②新規協力会員11名の登録や市民、関係機関への事業周知につながった。 (利用会員数:33名、協力会員数:21名) (令和3年度活動回数216回、令和4年度活動回数236回)	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①引き続き感染症対策を徹底して活動にあたる。また、継続して協力会員募集の周知を行い、担い手の確保に努める。協力会員向けの研修会を開催し、会員の知識向上に努める。 ②協力会員募集の周知をお願いしたい。行政関係機関との協力により、研修会の充実を図っていきたい。	B継続

取組内容 02]将来の担い手育成の支援

7	ボランティアの育成と連携機能の強化	学校教育課	参加人数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	0 58	人	①ボランティア育成として千葉県青少年赤十字の制度を利用したトレーニングセンター(研修名)を8月4日(木)に鎌ヶ谷小学校で31名、第五中学校で9名参加で実施。スタディーセンター(研修名)を12月26日(月)に中学生5名、12月27日(火)に小学生13名参加で千葉県赤十字会館で実施。 ②センターでの研修修了者が各校内でのリーダーとして活躍した。	A順調に進んでいる	①令和4年度はトレーニングセンターを学校で実施したが、担当校の負担が大きかった。令和5年度は他市と合同で千葉県赤十字会館にて行うこととなっている。コロナ禍前と同様に、トレーニングセンター(研修名)を修了した児童生徒の中から優秀であった者がスタディーセンター(研修名)に参加する予定となっている。 ②学校と協力して活躍の場を広げたい。	B継続
		社会福祉協議会	夏休み福祉体験	R3 R4 R5 R6 R7 R8	0 6	回	①感染症予防のため、人数、時間等を制限して開催した。また、新メニューを取り入れ、対象学年に適した体験内容の見直しを行い実施した。 ②対象学年、体験内容の見直しにより、充実した体験内容となった。また、若い世代の受け入れにより、ボランティアのモチベーションの向上につながった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①福祉への理解を深めるとともにボランティアとのふれあいをとおして活動することへの喜びを実感できるよう、充実した地域活動を取り入れ実施する。 ②地域の方へ協力を呼びかけ、ボランティア募集の周知に協力してもらいたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
8	福祉の学習機会の推進	高齢者支援課	開催回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	6 13	回	①認知症サポーター養成講座を13回実施した。(市民向け(大人)9回、小学校2校、中学校2校で実施。) ②認知症に関する知識を身につけ、理解を深めることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら開催回数の増加を目指していく。 ②多くの小中学校や地域、企業で講座開催について検討してほしい。	B継続
		社会福祉協議会	参加人数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	99 78	人	①西部小5年生(78名)の福祉体験(車いす・高齢者疑似体験・ポッチャ)を、ボランティアの協力を得て実施した。 ②感染症対策を徹底したうえでの開催は、制限がある体験メニューではあったが、障がいへの理解を深める体験となった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①小学校での福祉体験については、障がいについて理解が深まる内容であり、児童の思いやりを育てる福祉教育の一環として、今後もボランティア団体等関係者との連携に努める。 ②各小中学校等での福祉体験では既存のボランティア団体のほか、地域の方へ協力を呼びかけ、障がいへの理解を深めるとともにボランティア募集の周知に協力してもらいたい。	B継続

施策2 地域でのふれあい、支えあいを進めます

取組内容 03]活動拠点の支援と活用

9	地域活動支援センターへの支援	障がい福祉課	地域活動支援センター利用者数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	30 31	人	①鎌ケ谷市の援護する障がいの者の通所する地域活動支援センターⅢ型事業所(市内2か所、市外1か所)に対して、補助金を支出した。 ②地域において雇用及び就労が困難な在宅障がい者に対し、生産活動の機会創出などの支援を行うことができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①サービスの選択肢が多様化するなか、本市の社会資源やニーズに見合った支援が課題となっている。 ②障がいの者の福祉に関する啓発に協力してほしい。	B継続
10	自治会集会所整備に対する支援	市民活動推進課	自治会集会所整備件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	3 2	件	①道野辺あおば自治会借家事業、富岡自治会借家事業について支援を行った。 ②福祉活動など地域コミュニティ活動のほか、災害時の一時避難施設として集会所を活用できることで、自治会活動のより一層の充実を図ることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①集会所の老朽化が進んでいる自治会については建替や修繕事業を、集会所を持たない自治会については借家事業を案内するなど、地域の実情に合った自治会集会所の計画的な整備を支援する。 ②集会所整備にかかる自治会内での合意形成が必要。	B継続
11	社会福祉センター(活動拠点)	高齢者支援課	利用者数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	11,193 12,759	人	①健康増進体操、陶芸、手工芸、書道など各種講座を開催するとともに、来館者の健康相談を実施した。 また、各種サークル団体の活動支援を行った。 ②高齢者の憩いの場として活用され、趣味の幅を広げることにつながることができた。	A順調に進んでいる	①新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置づけが「5類相当」へ移行したことに伴い、施設の利用時間、お風呂、カラオケ等の利用制限を撤廃するとともに、各種講座や講習会等を充実させ、利用者数の増加を目指していく。 ②社会福祉センターで実施している団体・クラブにおける発表会や作品展に積極的に参加していただきたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
取組内容 04]ふれあい・支えあい活動に対する支援										
12	地域の交流イベント等への参加への支援	健康福祉部	福祉健康フェア入場者数(社会福祉課)	R3 R4 R5 R6 R7 R8	0 0	人	①感染症の影響を考慮して、来場者の安全を最優先する観点から、令和2年度、令和3年度に引き続き、令和4年度もかまがや福祉健康フェアを中止した。 ②特になし。	なし	①コロナ禍においても、市内外の福祉健康関係団体の活動を広く市民に周知するために、イベントの開催方法等を検討することが必要である。 ②福祉健康フェアに参加したいまたは関心がある団体がいらっしゃる場合は、紹介していただきたい。 また、若い世代の参加者を増やしていくために、福祉に関心のある学生などがいれば紹介していただきたい。	B継続
		社会福祉協議会	すまいる祭り入場者数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	0 106	人	①感染症予防のため、不特定多数が集まるイベント型の開催を中止し、市内11か所の就労継続支援B型事業所の紹介パネルをアクロスモール、中央公民館、ショッピングプラザ鎌ヶ谷、市役所市民ホールに、計54日間展示した。(令和4年度の実績値はクイズ参加者の数) ②多くの市民に展示を見てもらうことができ、参加事業者からも好評だった。また、参加事業所からは実際に「施設見学をしたい」などのお問い合わせがあったとの声をいただいた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①さらに多くの市民の方に障がいについての理解を深めてもらうために、市内障がい者施設にすまいる祭り参加のための啓発を行う。 ②行政や関係機関などと情報を共有し、効果的な啓発活動に努める。	B継続
13	老人クラブへの支援	高齢者支援課	会員数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	1,109 1,038	人	①単位老人クラブへの活動支援を行うとともに、老人クラブ連合会の事業として、各種スポーツ大会、カラオケ大会、作品展、芸能交流大会、老人クラブ大会、会報紙発行、手工芸教室、友愛訪問を実施した。 ②高齢者の健康増進、地域社会との交流促進につなげることができたほか、各単位老人クラブの新規会員の加入につなげることができた。(全体の会員数はクラブの廃止により減少)	A順調に進んでいる	①事業計画で決定した老人クラブ連合会の事業(各大会、作品展等)を着実に実施するとともに、各単位老人クラブには補助金を交付し、活動を支援していく。また、様々な媒体を活用し、老人クラブの活動を周知していく。 ②各事業について、老人クラブ連合会の各実行委員会が中心となって検討・実施いただくとともに、会報紙等を発行し、活動を周知することで、新規加入を促進する。	B継続
14	活動希望団体への助言支援	高齢者支援課	憩の家	R3 R4 R5 R6 R7 R8	11 10	箇所	①老人憩の家について、基本委託料のほか、特別な事業(体操、地域交流、世代間交流等)を実施した際、追加で委託料を支払うことで、運営を支援した。 また、広報紙、市ホームページ、パンフレット等により周知を図った。 ②地域の交流の場として、老人憩の家を11か所指定(年度途中で1か所廃止)し、高齢者の社会参加につなげることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①新規の老人憩の家の指定について、市民から相談があれば、現場調査等を行い、調整していく。また、憩の家の課題を整理し、必要に応じて、運営要綱を見直していく。 ②老人憩の家の活動について、広く周知いただき、利用者の増加を図る。	B継続
取組内容 05]市民との協働による地域福祉活動の支援										
15	自治会加入促進事業・市民活動応援補助事業	市民活動推進課	PRチラシ配布数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	6,000 6,000	枚	①感染症拡大防止のため実施を見合わせていた自治会加入促進月間を令和5年3月に実施し、鎌ヶ谷市自治会連合協議会と協働でPRチラシの配布や加入促進活動に取り組むことができた。 ②新たに開発があった地域等で、加入増につながった例がみられた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①引き続き、市と自治会連合協議会とで加入促進に取り組む。また、自治会役員の高齢化や単身世帯を中心とした未加入者の増加といった課題についても取り組む。 ②加入促進チラシの配布。	B継続
取組内容 06]学習の場や社会参加等を通じたふれあい機会づくり										
16	成人講座、ふれあいまつり等の学習センター主催事業	生涯学習推進課	各学習センター主催事業の参加人数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	716 5,964	人	①生涯学習を推進するため、生涯の各時期に応じた多様な学習機会の提供、グループやサークルの主体的学習活動の支援及び学習成果の発表など、各種事業を行った。 ②各館で27事業を実施、5,964人の参加があった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①多様化する市民の学習ニーズに対応した事業を企画していく。 ②各学習センター主催事業に積極的に参加していただきたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
17	かまがやまなびい大学	生涯学習推進課	学部主催講座と講師派遣事業の受講者数の合計	R3 R4 R5 R6 R7 R8	3,168 7,814	人	①行政の各部ごとに学部を設置し、学部ごとに主催講座を企画した。また、職員を講師として市民団体などの研修会や講習会に派遣した。 ② 学部主催講座 4講座 69人 講師派遣事業 198件 7,745人	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①講師派遣メニューを充実させ、広報紙や市ホームページを活用し、事業の認知度を高める。 ②市民団体などの研修会で講師派遣事業を活用いただき、また、学部主催講座に積極的に参加していただきたい。	B継続
18	社会参加促進事業	身体障がい者福祉センター	受講者数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	904 943	人	①通常講座13種類15講座165回、特別講座1種類3回を全て対面式で実施した。また、県障害者スポーツ大会への参加支援を3回行った。 ②通常講座の講師が新型コロナウイルス感染症で休講せざるをえない場合が14回あったが、うち3回はスタッフのみで運営し休講を避けることができた。特別講座では、ポッチャ競技の障がい者向け指導者養成講座及び市民体験講座を実施し、健常者と障がい者の交流及びふれあいの機会をつくることができた。県障害者スポーツ大会では全国大会への出場者1名を輩出した。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①通常講座は受講者が高齢化し、講座を欠席することが目立ち受講者数の減少につながっている。新規受講者獲得のため募集を行い、2人が新たに受講者となった。今後も適宜新規受講者の募集を行っていく。特別講座は健常者と障がい者の交流の機会となったことから、今後もこのような機会をつくっていくこととする。 ②車椅子等を利用している人等と知り合った場合には、身体障がい者福祉センターの紹介をしていただきたい。また、センター事業で健常者の参加も募る場合には、是非参加していただきたい。	B継続
19	世代間交流の充実	幼児保育課	おじいちゃん先生雇用人数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	4 4	人	①少子化、核家族化の進行するなかで、保育園において人生経験豊かな中・高齢者を、保育士を補助する職員として雇用した。 ②各公立保育園で1名(合計4名)を採用した。日常保育のなかで遊び等を通じて中・高齢者と触れあうことにより、乳幼児の豊かな情操を育むことに寄与した。	A順調に進んでいる	①安定した人員の確保。 ②人員確保のため、地域での就労希望者の紹介。	B継続
20	シルバー人材センターへの支援	高齢者支援課	会員数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	532 537	人	①シルバー人材センターへ補助金を交付し、運営の支援を行うとともに、会員の募集及び各種講座など自主事業の開催時に広報紙で周知を図った。 ②会員数は横ばいで維持されるとともに、高齢者の就労機会の確保や社会参加の促進につなげることができた。	A順調に進んでいる	①会員の平均年齢が上がっていると同時に、会員数が横ばい傾向となっていることから、会員の増加に向け、シルバー人材センターへ活動支援を行い、就業の確保を図っていく。 ②会員の増加に向け、様々な媒体を通じて、周知をお願いしていく。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
基本目標2 必要な相談・情報・支援が得られる仕組みを推進します										
施策3 地域における包括的な支援ネットワークづくりを進めます《重点施策》										
取組内容 07]地域包括ケアシステムの深化・推進										
21	生活支援体制整備事業	高齢者支援課	開催回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	14 14	回	①コロナ禍で、定期的な6生活圏域での第2層協議体の実施はできなかったが、不定期に開催はすることができた。 ②各生活圏域で課題となったものについて、事業実施ができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①第2層協議体を定期的に実施し、地域での話し合いを継続的に行う。 ②地域の人に一緒に取り組めるよう周知してほしい。	B継続
		社会福祉協議会	生活支援体制整備事業の実践回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	24 87	回	①6コミュニティエリアに配置した生活支援コーディネーターを中心に、それぞれの協議体で地域の実情に合わせた話し合いと実践を重ねた。 ②協議体事業への理解と参加者が増加した。例えば、中央東地区協議会で行った、健康チェックデーでは、健康チェックを行うとともに、保健師や地域包括支援センター職員による相談ブースを設けるなど、相談しやすい体制づくりをし、多くの方に参加していただいた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①引きこもりがちな高齢者や公民館まで行くことができない方がさらに参加しやすくなるように、各地区の特性や課題を把握するように努める。 ②できるだけ多くの必要な方に情報が行き渡るように、行政や関係機関などと情報を共有し、効果的な啓発活動に努める。	B継続
22	地域包括支援センター	高齢者支援課	相談件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	334 386	件	①権利擁護、介護予防ケアマネジメント及び地域ケア会議等を行った。 ②各地域包括支援センターに訪問依頼を行い、医療や介護サービス等に迅速に繋げることができた。 また、令和4年10月に基幹型地域包括支援センターを開設し、きめ細やかな相談を受け入れるようになった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①引き続き総合相談、権利擁護、介護予防ケアマネジメントを実施する。また、市で行っている事業等を地域包括支援センターへ周知し、適切なサービスにつなげるよう取り組む。 ②高齢者の見守りを行い、必要時関係機関へ情報提供をしてほしい。	B継続
23	在宅医療・介護連携の推進	高齢者支援課	研究会や講演会の実施回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	20 20	回	①世話人(在宅医療・介護連携の構築のため多職種の集まり)を3部会(研修部会、広報部会、認知症部会)に分け、各部会で在宅医療・介護連携に向けて協議を行った。世話人全体での会議は2回実施した。 ②全体研修は2回実施した。コロナ禍であったためZOOMでの研修会を実施した。会場に来ることが難しい医師の参加が増えた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①定期的に研修会、部会を開催し連携体制の強化を図る。また、在宅医療を推進していくため医師会、連携室と協働し事業を実施していく。 ②地域の医療機関や介護施設で顔の見える関係づくりを積極的に行ってほしい。	B継続
24	認知症施策の推進	高齢者支援課	会議開催回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	20 12	回	①認知症相談事業での月1回の勉強会や認知症地域支援推進員による認知症施策についての会議を実施した。 ②令和4年度から地域での協力者(ボランティア)のサポート員活動を始めることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①認知症関連事業への地域での協力者の育成、活動支援が必要である。 ②認知症の人やその家族が住みやすくなるよう認知症を理解し、偏見なく見守ってほしい。	B継続
25	介護予防・日常生活支援総合事業	高齢者支援課	市独自サービス事業所数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	46 46	箇所	①令和4年度から開始する通所型Aサービスの実施に向けて事業所説明会を実施した。 通所Cサービスは市直営として開始する。 ②介護予防・日常生活事業について市の取組内容と実施に向けて意見交換ができ、3事業所が通所A型事業所サービスを開始した。	〇実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	①通所型Aサービスを担う事業所を令和5年度までに8か所とする。通所Cサービスについては委託を検討していく。 ②見守り等地域での担い手となる活動を願いたい。	A充実

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
26	一般介護予防事業	高齢者支援課	運動教室参加人数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	145 145	人	①運動、栄養、口腔の複合プログラムによる運動教室を実施した。(ちよ筋教室:コロナのため全8回、2クール開催) 関節の痛み等あり悩んでいる方に柔道整復師が行う運動教室を実施した。(柔体操:コロナのため前期9か所、後期5か所実施) ②講座前後に実施する体力測定において初回と最終回では結果に改善がみられた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①定期的な講座の開催や運動教室、健幸サポーター(指導者として地域で体操を実施)の継続的な講座を開催する必要がある。 ②講座終了後も地域住民が気軽に集まって体操を実施できる場所の提供をお願いしたい。	B継続
		健康増進課	健康づくりボランティア参加人数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	45 31	人	①ボランティア定例会は、3回の全体会、2回の自主活動を開催した。ボランティア活動は、体操の会や談話室等で84回実施した。さらに鎌ヶ谷体操自主活動は市内6か所で活動、計151回、延べ2,516人が参加した。 ②全体会では、今年度の活動のあり方や課題などを各ボランティアで検討した。健康運動指導士による体操の会では、ボランティア活動で使う筋肉や運動が日常生活でどう活かされているか、身体の仕組みや正しい動かし方を学んだ。最終回で参加者全員が今後のボランティア活動に対する思いや、一年間の感想を発表した。	A順調に進んでいる	①ボランティアの高齢化で登録数が減少しているため、新規ボランティアの加入に向けて検討する。 ②介護予防事業への参加や健康づくりボランティアへの加入。	B継続
		生涯学習推進課	シルバー元気ゼミ参加人数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	350 828	人	①高齢者が元気で生きがいのある生活を送るため、健康寿命の延伸を図るとともに、地域活力の促進に寄与することを目的として、毎週月曜日に健康体操やストレッチ等の協働事業を行った。 ②講師を招いての健康体操等:全31回、延べ参加者数716人 スタッフによるフォローアップ教室:全5回、延べ参加者数112人 健康寿命の延伸・介護予防に寄与したと言える。	A順調に進んでいる	①シルバー元気ゼミはシルバー元気会の意向により、令和6年度からは市との協働事業ではなく、いちサークルとして活動することを目指す。令和5年度はその準備段階として、協働事業が廃止となった後も地域の高齢者が健康体操を続けられるよう、円滑な体制移行をサポートする。 ②シルバー元気会へ、協働事業である期間は担当課が担っていた事務などを引き継ぐことをお願いしたい。	D廃止
27	かまがや安心医療ナビ事業	健康増進課	かかりつけ医がいる割合	R3 R4 R5 R6 R7 R8	87 89	%	①新規開院、閉院した医療機関の情報を収集し、更新した。 ②夏期・年末年始等の長期休暇時期はアクセス数が上昇し、市民サービスの向上につながった。	A順調に進んでいる	①随時情報を更新する。 ②かかりつけ医を持つこと。	B継続
取組内容 08]地域における包括的な支援体制づくり										
28	地域支えあいの推進	障がい福祉課	開催回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	3 3	回	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大が落ち着いたことから、令和4年度は全3回全て対面で自立支援協議会を開催し、テーマ別チーム会議の活動についても、6チームが対面とオンライン会議併せて30回の会議を開催した。 ②自立支援協議会では議題の検討を行い、テーマ別チーム会議では、各チームがガイドブック作成や研修を開催するなど、障がい者への支援体制整備につなげた。	A順調に進んでいる	①テーマ別チーム会議のなかで作り上げたものを、今後、効果的に活用し、さらに周知していく必要がある。作成したガイドブックなどは継続的な更新作業を可能とする体制づくりをしていく。 ②上記の体制づくりのため、自立支援協議会において活発に意見交換をし、対外的にも積極的に情報発信していく。	B継続
取組内容 09]地域福祉コーディネーターの配置と相談体制の充実										
29	地域福祉コーディネーター	社会福祉協議会	事務局会議等	R3 R4 R5 R6 R7 R8	18 13	回	①地区社協事務局会議や連絡会を通し、各地区の情報共有を行った。また、感染症の影響で中止していた、地区社協事業再開に向けた情報交換会や災害VC立ち上げ訓練などの研修会を通じ、職員の資質向上に努めるとともに、地域福祉コーディネーターを配置して様々な相談支援を行った。 ②他地区の事業実施状況や工夫を学ぶことで、自地区の取組に取り入れ、活かすことができるようになった。特に、事業の再開に向けた人数制限や周知の仕方について情報共有することで、スムーズな事業の再開に向けた準備を整えることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①コロナ禍で取り入れた工夫や事業を継続しつつ、コロナ禍前の事業の再開を目指すなかで、総事業量が増加している。運営委員の方々も高齢化し、人数も限られており、一人ひとりの負担が大きくなっていることが課題である。 ②事業の啓発をお願いしたい。また、ちょっとしたお手伝いなど、地域活動への積極的な参加をお願いしたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
取組内容 10]乳幼児、児童から高齢者まで地域で見守る体制の充実										
30	民生委員・児童委員活動への支援	社会福祉課	民生委員・児童委員の実数(4月1日時点)	R3 R4 R5 R6 R7 R8	153 153	人	①12月1日に一斉改選を行い、150名委嘱し、新任委員34名に対し、新人研修会を開催した。一斉改選後に2名の欠員について、推薦会を開催した。また、3年ぶりに70歳以上の高齢者訪問を行い、担当地域の実態把握ができた。 ②新人研修会では、新任委員に対して福祉の知識や理解を深めるとともに、今後の民生委員活動の向上につなげた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①全委員を対象とした行政研修を行い、福祉に対する知識の理解を深め、民生委員活動の向上につながるよう支援する。 また、市ホームページ等の内容を充実させ、民生委員活動について市民に広く周知し、欠員補充に努める。 ②自分の住んでいる地域の民生委員・児童委員を知っていたら、民生委員と自治会が協力して活動していただきたい。	B継続
		社会福祉協議会	相談・支援件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	827 971	件	①新型コロナウイルス感染症に注視し、消毒・換気を徹底し、対面にて会長会や理事会を開催した。一斉改選があり、新任の民生委員・児童委員に対して社会福祉協議会や社会福祉課からの説明会を行った。また、徐々に対面による地域の見守り活動や安否確認、啓発活動を行った。 ②見守り活動や安否確認をきっかけに、他のサービスにつなげることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①各地区にて新任民生委員・児童委員の育成にあたっては、また、定例会や研修会への参加や、活動記録の記入方法など見識の向上に努める。 ②民生委員を騙る詐欺などがあるため、担当の民生委員・児童委員を知っていただき、民生委員・児童委員が安心して見守り活動や安否確認をできるようご理解とご協力をいただきたい。	B継続
31	地区ふれあい員制度への支援	市民活動推進課	地区ふれあい員委嘱数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	467 430	人	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面開催で行っていた地区ふれあい員のつどいについて、令和4年度は参集して開催することができた。また、各地域における研修活動の一部が再開した。 ②コロナ禍で停滞していた福祉活動について、地域における見守り活動の意義を再確認する機会を設けることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①コロナ禍で実施を見合わせていた市と自治会が協働で取り組んでいる事業について、自治会へ再周知する必要がある。 ②地区ふれあい員による見守り活動の強化をお願いしたい。	B継続
32	乳児家庭全戸訪問事業、保健推進員活動	健康増進課	乳幼児全戸訪問率	R3 R4 R5 R6 R7 R8	97.6 93.8	%	①新生児訪問、保健推進員訪問、保健師訪問等にて乳児のいる家庭に全戸訪問を実施した。また、訪問する保健推進員の資質向上のため、保健所の講義等を研修会のなかで視聴するなど定期的な研修会を行った。 ②93.8%の乳児のいる家庭に訪問することができ、必要な人を早期に支援につなげることができた。また、訪問できていない市民についても、地区担当保健師が状況を把握することができた。	A順調に進んでいる	①事業の目的や重要性を理解し、必要な支援につなげられるよう保健推進員やそれを支援する保健師の資質の向上を図る。 ②必要な支援が受けられるよう、母子健康手帳発行時や出生票提出時等で紹介のあった、乳児家庭全戸訪問事業を利用していただきたい。	B継続
33	妊娠、出産及び育児期における養育支援家庭の早期把握	健康増進課	関係機関につなげた件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	118 63	件	①利用者支援事業(母子保健型)を継続し、保健師等による全数面接や、乳児健康相談・幼児健康診査等の母子保健事業を通して、支援が必要な家庭を把握し、必要な機関につなげた。また切れ目ない支援となるよう、必要な関係機関と連携し、支援を行った。 ②妊娠期から様々な母子保健事業をとおして、切れ目のない支援を行うことができた。	A順調に進んでいる	①継続支援の必要な場合については、課内で情報共有をするとともに、関係機関と連携したケースについては、連絡会等を通し、継続してその後の支援の方向性を確認し支援を行う。 ②地域のボランティアや相談者へ各サービスや相談窓口を知ってもらい、必要な時に活用するとともに、他の市民にも利用できるような伝えていく。	B継続
34	緊急通報システム事業	高齢者支援課	利用者数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	51 59	人	①緊急通報システムについて、市民から相談があり、実態調査等を行った結果、新規で18件設置した。 ②緊急通報システムを設置することで、高齢者への緊急時における支援が可能となった。なお、昨年度は8件、救急により病院へ搬送した。	A順調に進んでいる	①高齢者の増加に伴い、新規の設置相談は増加しているが、引き続き、広報紙や市ホームページ等を通じて、事業の周知を図っていく。 ②緊急通報システム設置にあたり、近隣に住む方に緊急対応時に消防や業者と連絡を受けてもらう協力員の同意に協力をお願いいただく。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
35	徘徊高齢者位置情報提供サービス事業	高齢者支援課	利用者数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	17 15	人	①認知症の高齢者が徘徊等により所在が不明となったとき、現在位置をある範囲で特定し、情報を提供するサービスを実施した。 ②徘徊のある高齢者に位置検索機を貸し出し、介護者の負担を軽減させることにつながった。	A順調に進んでいる	①徘徊のある高齢者が端末機を身につけていないと効果がない。 ②地域での見守りをお願いしたい。	B継続
36	ひとり暮らし高齢者等給食サービス事業	高齢者支援課	利用者数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	48 49	人	①ひとり暮らしの高齢者世帯で、認知症や調理困難、または低栄養状態な方に対して、昼食・夕食を週2回配食しており、令和4年度は49人に対して、延べ2,143回配食を行った。 ②栄養のバランスのとれた食事を訪問により定期的に提供することで、食生活の改善や健康増進が図られたほか、利用者の安否確認を行い、生活を支えることにつながった。	A順調に進んでいる	①高齢者世帯や調理困難な方等が増加しており、利用者数も増加しているため、引き続き広報紙や市ホームページ等を通じて、事業の周知を図っていく。 ②身近な方で利用対象者がいた場合、事業の周知をお願いしたい。	B継続

施策4 福祉サービス等に関する相談支援体制を充実します

取組内容 11]高齢者の相談支援体制の充実

37	地域包括支援センター(再掲)	高齢者支援課	相談件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	334 386	件	①権利擁護、介護予防ケアマネジメント及び地域ケア会議等を行った。 ②各地域包括支援センターに訪問依頼を行い、医療や介護サービス等に迅速につなげることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①引き続き総合相談、権利擁護、介護予防ケアマネジメントを実施する。また、市で行っている事業内容を把握し、適切なサービスにつなげるよう取り組む。 ②高齢者の見守りを行い、必要時関係機関へ情報提供をしてほしい。	B継続
----	----------------	--------	------	----------------------------------	------------	---	--	--------------------	--	-----

取組内容 12]子育ての相談支援体制の充実

38	利用者支援事業	こども支援課	設置箇所数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	1 1	箇所	①子育て支援コーディネーターを配置し、教育・保育施設や地域子育て支援事業等の利用者に対して情報提供や助言を行うとともに、地域の子育て資源の育成を図った。 ②利用者支援事業については、週3回程度実施した。また、公共施設における出張窓口については、年間計12回実施し、昨年と比べ利用者増となった。 また、サークル立ち上げの支援を行い、1団体が立ち上がった。	A順調に進んでいる	①子育て支援コーディネーターの資質の向上及び子育て世代が求めている情報やニーズを把握し、相談業務の充実を図る。 ②子育て世代のニーズを把握するため、子育て支援コーディネーターの存在の周知に協力をお願いしたい。	B継続
39	妊産婦に対する訪問・相談	健康増進課	妊産婦に対する訪問・相談実施件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	1,376 1,417	件	①利用者支援事業(母子保健型)を継続するとともに、母子健康手帳交付時に保健師・助産師による全数面接を行うとともに支援プランを作成し、必要時、妊産婦訪問、相談を実施した。妊産婦への支援を「産前産後サポート事業」に位置づけることで内容を明確にし、他機関へつなげる等、切れ目ない支援を行った。また、早期の母子健康手帳交付となるよう、広報紙等で、広く周知を行った。 ②母子健康手帳交付時に専門職が全数面接し、支援プランを作成できた。また、支援が必要な妊産婦には電話や訪問等で確実に支援することができた。	A順調に進んでいる	①早期に母子健康手帳の交付につながるよう広報紙や市ホームページでの周知徹底が必要。一人ひとりにあった、きめ細やかな情報提供を行うとともに、要支援者を必要な支援につなげられるよう、職員のスキルの向上と相談しやすい体制づくりに努める。 ②民生委員、主任児童委員、保健推進員等、地域の支援者の方に各サービスや相談窓口を知ってもらい、必要な方をつなげてもらう。	B継続
40	子どもに対する訪問・相談	健康増進課	子どもに対する訪問・相談実施件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	4,537 5,210	件	①出生届出時に母子保健サービス登録票の提出を受け、新生児訪問を実施し、必要なサービスにつなげた。その後も支援が必要な乳幼児には、訪問等で相談・指導を実施した。また、乳幼児健康相談・健康診査は全数通知をするとともに、未受診者へは訪問や面接・電話にて支援を実施した。さらに、支援する側のスキルを向上させるため、定期的に研修会を実施した。 ②出生時から、母子保健サービス登録票を確実に提出してもらい、その後も新生児訪問や健康診査等で切れ目ない支援を行うことができた。	A順調に進んでいる	①母子保健サービス登録票の提出時の面接、乳幼児健康相談・健康診査未受診者への対応を継続し、必要な支援・サービスにつなげる。研修会の実施等で、継続して職員の面接技術の向上を図る。 ②民生委員、主任児童委員、保健推進員等、地域の支援者の方に各サービスや相談窓口を知ってもらい、必要な方をつなげてもらう。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
41	子どもの教育に関する相談	学校教育課	心理発達相談員の相談件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	733 792	件	①新規の相談申込の対応と、継続的な相談を電話及び面談にて実施した。 新規の相談については、学校巡回の際に心理発達相談員への相談を学校から保護者へ提案するようお願いしたり、広報紙により相談窓口の周知を年間をとおして掲載して周知したり、発達センターからつないでもらったりした。 ②相談から発達検査につながった件数が令和3年度と比較して増加し、児童生徒にあった学習の場の提案につながった。	A順調に進んでいる	①検査数の増加により特別支援学級の児童生徒が増加し、学校での対応に様々なケースが出てきた。そのため学校での面談に同席することが増加し、時間がかかっている。しかし丁寧に対応する必要があり、今後も対応していきたい。 ②学校と保護者の面談から相談・発達検査につながるケースもあるため、学校には、支援が必要な子供や保護者に利用を勧めていただきたい。	B継続
42	家庭児童相談室	こども総合相談室	相談受付件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	16,132 19,218	件	①こどもと家庭に関する身近な子育ての相談から児童虐待に至る深刻な相談まで対応した。 ②令和4年度の相談対応延件数は19,218件であり、前年度と比べ、より多くの相談に対応した。また、相談内容に応じて、関係各所と連携し、迅速な支援を実施することができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①児童虐待相談対応においては、継続的な対応が必要であり、職員の専門的知識、対応技術の向上が必要である。 ②子育てに悩んでいる親や、児童虐待を疑われるこどもに気づいた際にはご連絡をお願いしたい。	B継続
43	児童センター・保育園による相談事業	子育て支援センター	電話・サロン等での相談	R3 R4 R5 R6 R7 R8	565 593	件	①子育て支援センター・各児童センターにおいて実施するつどいの広場や子育てサロンでの相談のほかに、電話相談を受け付けた。 ②保護者との何気ない会話から相談まで寄り添って聞くことで、子育ての不安感の軽減につながった。 内容によっては関係機関につなげ、支援の輪を広げることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①保護者からの相談を受ける職員や子育てアドバイザーの資質の向上が必要。 ②地域で孤立したり悩んでいる親子に子育て支援センターや児童センターの利用を進めてほしい。	B継続
		各児童センター	電話・つどいの広場等での相談	R3 R4 R5 R6 R7 R8	598 733	件				
		各保育園	電話・園庭開放等での相談	R3 R4 R5 R6 R7 R8	445 537	件				
44	子どもの発達に関する相談	こども発達センター	相談・支援件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	3,502 3,559	件	①療育支援として、専門職による相談を実施した。(電話、来所、施設への訪問) 指定障害児相談支援事業所では、福祉サービスの利用に向けての基本相談、計画相談を実施した。 ②こどもの発達に関する相談機関として、保護者や関係機関からの相談を受け、子育て環境を整える支援を行った。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①保護者からの相談のほか、地域の保育の現場からも障がいの早期発見、早期対応のための専門職の助言の希望が増えている。 ②発達障がいやその特性のあるこどもを地域全体で支えていくために、支援が必要なこどもや保護者に利用を勧めていただきたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
取組内容 13]障がい者の相談支援体制の充実										
45	障がい者相談支援事業	障がい福祉課	相談件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	15,935 15,799	件	①障がい者や家族からの相談に応じ、必要な援助を行うために、1事業所に相談業務を委託し、障がい者の日常生活における自立、社会生活の向上を図った。 また、各種相談員の資質向上や地域における相談支援の中核的役割を担う機関として、基幹相談支援センターで専門的な助言指導、相談支援事業所の定期連絡会などを行い、事業所間の連携を強化した。 ②利用件数が増加し、多様化する相談に対応することができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①相談件数の増加や多様化により、相談支援体制の強化や質の向上等の課題があるため、自立支援協議会等で課題を共有し、市全体の底上げを図るための必要な取組を検討する。 ②基幹相談支援センターの体制強化を行い、委託先事業所も含め、今後も連携して事業を行う。また、定期的に情報共有の場を設ける。	B継続
取組内容 14]健康に関する相談支援等の充実										
46	健康相談事業	健康増進課	健康相談実施数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	2,610 3,387	人	①感染症の拡大に伴い中止していた事業を感染症対策に留意し、ほぼ再開し実施した。 ②個々の問題に寄り添った助言をしたり関係機関につなげるなど、健康づくりや問題解決に寄与することができた。	A順調に進んでいる	①中止している事業を再開するとともに、多様化する相談に対応できるよう個々のスキルアップを図る。 ②身近な人が健康に関する事等で悩んでいる人がいたら、相談窓口を紹介してほしい。	B継続
施策5 生活困窮者の自立支援を進めます										
取組内容 15]生活困窮者への自立支援										
47	自立相談支援事業	社会福祉課	支援プラン作成件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	97 58	件	①経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある人に対し、専門の支援員が一人ひとりの状況に合わせた支援プランを作成し、住居確保給付金などの各種給付金の案内や保険料の分納相談、社会福祉協議会への貸付の案内や求人紹介による就労支援などを行った。 ②81件の新規相談を受け付け、58件の支援プランを作成することができた。	A順調に進んでいる	①相談者が困窮状態から早く抜け出せるよう、関係機関との連携や各種制度の利用につなげていく必要がある。 ②複合的な課題を抱える相談者に対応するため、地域における支援機関や団体とのネットワークづくりを進めていきたい。	B継続
48	住居確保給付金の支給	社会福祉課	支給決定者数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	107 12	人	①令和2年度からの継続で令和4年度も要件や活動内容が緩和され、コロナ特例の再支給可能期間や職業訓練受講給付金との併給可能期間が延長となったなか、支援を行った。 ②常用就職しても社会情勢により解雇や倒産で会社都合で退職する人も見受けられたが、再支給や併給により自立する人が増加した。	A順調に進んでいる	①今後別の支援を受けた際などに、必要に応じて再支給の案内などを周知する。また、新たな制度改革があった際には迅速に対応を行う。 ②新しい制度などの情報共有を図り、利用を促進したい。	B継続
49	就労準備支援事業	社会福祉課	利用者数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	6 16	人	①生活習慣の見直しや履歴書の書き方などの内容の講座を実施した(全12回)。また、感染症対策に配慮して、職場見学などを実施した。 ②講座の申込者は6名、延べ参加者数は16名に参加いただくことができ、就労に向けた事前準備や就労に対する意欲喚起をすることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①就労準備支援事業への参加者の募集方法を検討し、いかにして参加者を増やしていくかが課題である。 ②地域で仕事をしておらず、引きこもりなど社会とのかかわりが希薄な人がいた場合は、就労準備支援事業を紹介していただきたい。	B継続
50	子どもの学習・生活支援事業	社会福祉課	利用者数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	34 20	人	①生活困窮世帯における、小学4年生から中学3年生までの児童生徒を対象とし、基礎学力向上と安心して過ごすことのできる居場所の提供を目的として、こどもの学習・生活支援事業を自習形式で実施した。 ②小学生が7人、中学生が10人、中学生から利用している高校生が3人の合計20人に参加いただくことができ、学力向上等の支援を行うことができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①感染症対策に配慮したうえで、将来に希望を持つことができるようなプログラムを企画し実践していく必要がある。 ②事業を利用する児童生徒の保護者と意見交換し運営していくため、意見等があれば積極的に提言いただきたい。また、地域で学習の場、生活の場を必要としている児童生徒がいた場合は、子どもの学習・生活支援事業を紹介していただきたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
施策6 地域福祉に関する広範な情報提供を進めます										
取組内容 16]情報提供体制の充実										
51	相談窓口の周知	健康福祉部を中心とした各所属所	相談窓口の広報掲載件数(市民活動推進課)	R3 R4 R5 R6 R7 R8	12 12	件	①各種相談窓口について、広報紙で12回周知した。 ②周知した結果、全体で349件の相談に応じることができた。	A順調に進んでいる	①各種相談窓口について、広報紙での周知を継続する。 ②地域のふれあいのなかで、困っている人に各種相談窓口を紹介していただきたい。	B継続
			チラシ配布枚数(社会福祉課)	R3 R4 R5 R6 R7 R8	1,480 1,500	枚	①生活や子育て、ボランティアなどに関する窓口を周知するための「さまざまな相談窓口(鎌ヶ谷市)」のチラシを関係所属所に配付し、市民周知を図った。 ②1,500枚のチラシを配付することができ、各種相談窓口の周知を図ることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①チラシに記載している窓口の情報について、定期的な更新が必要である。また、周知方法について検討する必要がある。 ②相談窓口がわからず、困っている方がいた場合は、相談窓口を周知していただきたい。	B継続
52	広報紙等の充実	広報広聴室	広報発行回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	28 24	回	①「広報かまがや」の定期的な発行(市ホームページへの掲載、SNSでの告知、スマートフォン用アプリ「マチイロ」での配信を含む)、新聞未購読世帯の希望者へのポストイング実施、公共施設や駅への配置、声の広報の実施、より読みやすく親しみのある紙面デザインの実施。 ②市の施策や行事、市民の自主的活動等の市民生活に必要な情報を提供し、市政への理解と協力を得ることに資する広報紙を発行することができた。また、「広報かまがやカラーユニバーサルデザイン(CUD)適用マニュアル」に基づいた、誰もが分かりやすい色づかいとすることによって、高齢者、視覚障がい者等にも見やすい紙面とすることができた。	A順調に進んでいる	①障がいの有無等に関わらず、より多くの読者に市政情報等について周知するために「広報かまがやカラーユニバーサルデザイン(CUD)適用マニュアル」に沿った広報紙の発行を継続する。また、文字情報だけではなく、効果的なイラストや写真を掲載するなどし、視覚的にもより読みやすく親しみの持てる広報紙を発行する。さらに、市政情報を全ての市民に確実に届けるため、配布方法の拡充に取り組む必要がある。 ②声の広報を、引き続き朗読ボランティアと協力して作成し、視覚障がい者へ配布する。	B継続
53	市ホームページの管理・運営	広報広聴室	市ホームページ更新件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	4,531 3,362	件	①各所属所が主体的にコンテンツ作成・更新作業ができるように、各種問い合わせや相談に対し、きめ細かく対応した。 ②ウェブアクセシビリティに配慮したコンテンツ作成について、職員間の共通認識を深めた。また、感染者発生情報等について広報広聴室から情報発信を行い、迅速な発信に努めた。	A順調に進んでいる	①今後も誰もが利用しやすいホームページとなるよう、ウェブアクセシビリティに配慮し、市民に見やすく分かりやすい行政情報の提供を行っていく。また、市ホームページを編集・公開するためのシステム及びサーバーの機器賃貸借の長期継続契約が令和5年5月31日に終了するので、遅滞なく契約更新するための準備が必要である。 ②市民生活に必要な情報や本市の魅力を積極的に発信し、「各課への「お問い合わせメールフォーム」及び「市長への手紙(ウェブ版)フォーム」を通して今後も意見などを受け付けるので、不明点等があればご提言いただきたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
基本目標3 安全で安心して暮らせる仕組みを推進します										
施策7 避難行動要支援者への支援等防災対策を進めます										
取組内容 17]災害時に支援が必要な人の把握と安全確保策の推進										
54	避難行動要支援者避難支援事業	社会福祉課	同意者数 (要支援者のうち、地域で情報共有することについて同意した者)	R3 R4 R5 R6 R7 R8	1,891 2,261	人	①避難行動要支援者に対して避難支援制度の意思確認を行い、作成した同意者名簿を、協定を締結した自治会等の地域の支援者に提供した。 また、避難支援制度に同意した方に対して、緊急時などに備えて自分の情報を保管しておく救急医療情報キットを配付した。 ②避難支援制度の同意者数は2,261人となった。 救急医療情報キットは911人に通知を発送し、436人に配付することができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①同意者名簿を提供するための協定を締結していない自治会に対して、避難支援制度の周知を行う。(令和4年度時点では21自治会と協定を締結している。)救急医療情報キットの配付を計画的に進め、すべての要支援者に配付できるように取組を進める。 ②地域で高齢や障がいなどの理由により、災害時に1人で避難することが難しい人がいる場合には、避難支援制度を周知していただきたい。	B継続
取組内容 18]防災対策の充実強化と防災意識の高揚										
55	地域防災計画	安全対策課	地域防災計画の改訂回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	0 0	回	①令和3年4月より改訂作業を開始し、令和4年度は鎌ヶ谷市危機管理推進会議で改訂案の審議を行い、「鎌ヶ谷市地域防災計画(改定案)」を決定し、パブリックコメントの準備を行った。 ②「鎌ヶ谷市地域防災計画(改訂案)」を決定し、改訂に向けての作業を進めることができた。	A順調に進んでいる	①地域防災計画に検討を加え、必要があると認めるときは改訂作業を実施する。 ②大規模な災害が起こると、市の準備だけでは対応しきれないこともあり、市民や企業との協力が必要となる。有事の際に備え、自身や家庭、事業所で日常から準備をしていた。 また、災害が発生した時には、家族はもとより地域の方々と連携して、初期消火、付近の高齢者などにも声を掛けあい避難をし、避難所運営に協力して助けあっていただきたい。	B継続
56	総合防災訓練	安全対策課	参加人数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	0 0	人	①新型コロナウイルス感染症の影響により、総合防災訓練が中止となったが、それに代わる市民に向けた防災啓発事業等を実施した。 ②防災啓発を行うことにより、市民の防災意識が向上した。	A順調に進んでいる	①新型コロナウイルス感染症の影響により、感染症への対策も考慮した訓練を行っていく必要がある。 ②市民一人ひとりの防災意識、防災行動力を向上させ、市民の生命、財産を災害から守り、安全で安心な生活を確保することを目的としているため、多くの市民に積極的に参加していただきたい。	B継続
57	社会福祉センター(福祉避難所)	高齢者支援課	広報依頼件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	8 8	件	①施設改修として、貯湯槽給水設備の修繕、カーテンの交換、外部階段手すり設置工事を実施した。また、緊急時の対応として、消防避難訓練を2回実施した。 ②既存不適格の箇所が解消されるとともに、福祉避難所としての機能の充実が図られた。	A順調に進んでいる	①感染症対策のため、物品(非接触型検温器)や手指消毒液を購入する。 ②感染症対策に協力いただくとともに、身近な方で社会福祉センター利用希望者がいた場合、周知をお願いいただきたい。	B継続
取組内容 19]災害発生時の迅速な情報伝達、かまがや安心eメールの登録促進										
58	かまがや安心eメール	安全対策課	登録者数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	10,598 11,489	人	①広報かまがや(毎号:年24回)に登録用QRコードを掲載し、市ホームページに登録案内ページを掲載した。案内チラシの自治会回覧を10月に行った。 ②令和3年度末に10,598人だった登録者が、令和4年度末には11,489人となり、891人増加した(防災情報6,963人・防犯情報4,526人 ※重複登録者あり)。	A順調に進んでいる	①かまがや安心eメールの登録者をさらに増やすため、啓発活動を継続する。 ②かまがや安心eメールは、防災・防犯関係の重要な情報を配信しているため、地域においても登録を啓発していただきたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
施策8 安全で暮らしやすいまちづくりを進めます										
取組内容 20]安心・安全な道路環境と移動手段の確保										
59	道路・歩道等の整備	道路河川整備課	整備延長	R3 R4 R5 R6 R7 R8	1,585 1,500	m	①道路の整備(道路の新設、改良)をL=1, 500m実施した。 ②道路環境が改善され、利便性の向上や、振動及び騒音等の軽減に繋がった。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	①歩道の整備等、道路拡幅が必要な事業には用地買収が伴うことから、多額の費用や多くの年月を要する。そのようななか、国からの交付金の内示率が低く、十分な財源の確保が難しい状況であることから、限られた費用の中で成果を挙げられるよう事業に取り組んでいく。 ②特になし	A充実
60	安全な歩行空間の確保	道路河川管理課	看板撤去枚数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	0 57	枚	①市内の主要幹線道路及び駅前広場等にて違法看板の合同撤去を行い57枚撤去を行った。 駅周辺の放置自転車等の撤去作業を50日行い、115台撤去した。また、市内小学校第5、6学年及び市内中学校全学年の生徒に自転車の放置禁止を呼び掛けるパンフレットを配布した。 ②新型コロナウイルスの感染状況の緩和に伴う外出の増加などから考えられる放置自転車等の増加を抑えることができた。	A順調に進んでいる	①前年度と比較して違法看板の枚数、放置自転車等の台数は増加しているため、引き続き対策を実施する。 ②職員による見回りを実施しているが、市民による通報も重要な情報源であることから、違法看板や放置車両を発見し、それらが通行の支障となっている場合は市へ通報していただくと幸いである。	B継続
			自転車撤去台数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	106 115	台		A順調に進んでいる		B継続
61	通学路安全対策推進行動計画に基づく各種事業	学校教育課	児童生徒の交通事故件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	9 16	件	①第4次通学路安全対策推進行動計画に基づき、令和4年度の安全施設等の設置工事については、グリーンベルト、区画線の補修や、横断歩道のカラー化、ラバーポールの設置等を実施した。 ②通学路整備にあたり学校や道路管理者などと協議を重ね、安全確保を図った。指標の数値では前年比で増加したが、引き続き整備を行っていく。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①児童生徒の事故件数が減少していくように、今後も安全施設等の設置工事、子ども自転車安全運転講習会、スクエアード・ストレイト自転車交通安全教室を通じて、ハード面とソフト面の両面から安全対策を実施していく。 ②安全対策が必要と思われる通学路があれば、地域からも学校を通じて要望していただきたい。	B継続
62	コミュニティバス運行助成事業	都市政策室	利用者数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	106,672 121,755	人	①バス事業者3社に対し運行助成金を交付し、コミュニティバスの運行を継続した。 (令和5年度から、運転免許自主返納割スタートのための準備実施) ②令和4年度は利用者は前年度比で約14%増加した。新たな運行計画については、令和5年度から開始するコミュニティバス運営検討委員会にて検討する。(令和8年度から運行開始予定)	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①コミュニティバスを維持するため、引き続き運行補助を行う。 令和5年度に、新鎌ヶ谷駅バス停留所に上屋・ベンチを設置予定。 令和8年度からの運行を令和5年度から開始するコミュニティバス運営検討委員会にて協議予定。 ②持続可能な運行を継続し、多くの市民に利用していただきたい。	A充実

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
取組内容 21]地域による防犯体制の構築と防犯意識の高揚										
63	パトロール体制の構築	安全対策課	自主防犯パトロール隊員数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	1,068 987	人	①チラシ、市ホームページ等で自主防犯パトロール隊員を募集した。 ②随時、自主防犯パトロール隊への新規参加があった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①自主防犯パトロール隊の団体数37団体に変化はなかったが、隊員数が減少した。隊員の平均年齢が高いため、引き続き様々な媒体を使用して隊員を募集する。 ②地域の自主防犯パトロール隊に、積極的に参加していただきたい。	B継続
64	夜間防犯パトロール事業	安全対策課	通報件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	1 1	件	①青色回転灯付防犯パトロール車2台により、週5日間、1日7時間のパトロールを261日実施した。 ②重点活動地域の指示を8件、警察への通報を1件行った。	A順調に進んでいる	①令和4年度の市内刑法犯認知件数は前年度から減少し、事業の効果は向上しているが、今後も犯罪が起きやすい夜間のパトロールを継続して実施する。 ②自分でできる犯罪防止対策をとってもらうとともに、近隣の防犯上危険な箇所等の情報を提供していただきたい。	B継続
65	防犯サテライト事業	安全対策課	防犯サテライト事業の実施回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	5 9	回	①駅前でのチラシ配布や団体の依頼による詐欺の実演等の防犯サテライト事業を9回実施した。 ②新型コロナウイルス感染症の影響は残るが、防犯サテライト事業の実施回数が令和3年度の5回から令和4年度は9回に増加した。	A順調に進んでいる	①電話de詐欺の被害根絶に向けて、警察・防犯協会と連携し、啓発活動を継続する。 ②犯罪被害の防止のため、近所の高齢者への注意喚起や声掛けをしていただきたい。	B継続
66	児童生徒安全パトロール事業	学校教育課	不審者情報件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	49 51	件	①犯罪に巻き込まれることのないよう、児童生徒の下校時に合わせ、2人で1班編成として車両(青色パトロールカー)2班、徒歩を1班増やし4班でパトロールを行った。 ②不審者情報が入った場合、直接パトロール員に情報提供し、学校や市青少年センターとも情報共有するなど、迅速に周辺パトロールを実施した。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①地域の方々の見守り活動について情報共有を行い、市内全域で防犯活動の空白地帯ができないように、見守りをさらに強化していく必要がある。 ②パトロール員だけでなく、かまがや83プラス運動などを通じ、地域全体で子どもたちを見守る意識を高めてもらいたい。	B継続
67	青色回転灯付防犯パトロール車の活用	学校教育課	不審者情報件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	49 51	件	①各小中学校区に青色パトロールカーを設置し、教職員を中心に活動を行った。また、教育委員会側でも学校への訪問時には、児童生徒の登下校時間帯に合わせた巡回を行うことや、不審者情報のあった箇所の見守りを行った。 ②不審者情報があった箇所に対し、学校の教職員と教育委員会の職員による見守りを行った。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①特に学校の教職員による登下校時のパトロール実施は負担が大きい、教育委員会の職員とともに、児童生徒の見守りを積極的に行う必要がある。 ②不審者情報等は、各中学校区安全ネットワーク会議での情報共有や警察への情報提供を行うなど、地域全体で子どもたちを見守る意識を高めてもらいたい。	B継続
68	安全ネットワーク会議	学校教育課	不審者情報件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	49 51	件	①市内5つの中学校区において学校主催で安全ネットワーク会議を開催し、通学路上の安全対策や防犯対策が必要な箇所、地域のボランティアの方の活動状況などを情報共有した。また、鎌ヶ谷警察にも出席いただき、交通面・防犯面で指導をいただいた。 ②交通面・防犯面で注意・対策を要する箇所を理解し、関係者間で共有することができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①安全ネットワーク会議での情報共有を通じて、防犯活動の空白地帯がでないようにしていく必要がある。 ②自治会など地域において、子どもたちを見守る意識を高めてもらいたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
施策9 成年後見制度の利用促進を進めます										
取組内容 22]制度の周知と運用体制づくりの推進										
69	成年後見制度の周知と活用	高齢者支援課	研修会や講習会による周知	R3 R4 R5 R6 R7 R8	0 1	回	①NPO法人東葛後見人の会が実施する成年後見制度に関する研修会について後援承認し、チラシを配布した。 ②成年後見制度の周知と市民の理解向上につながった。	C実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	①感染症の感染拡大防止に努めながら、安心して参加することができるよう中止で修了できなかった方に対してもアナウンスし研修を開催していく。 ②成年後見制度を理解し助けが必要な方の役に立っていただきたい。	B継続
		社会福祉協議会	講演会の開催回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	0 0	回	①コロナ禍の影響もあり講演会は実施しなかったが、司法書士の協力を得て「成年後見制度・遺言個別相談会」を市内7か所で計8回実施した。 ②相談会では計26件の相談に応じることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①広報紙やチラシで啓発に努める。また、成年後見制度利用促進のためパンフレットの配布で制度の周知に努める。 ②相談会の実施案内を広報紙やチラシで啓発するので、啓発の協力をお願いしたい。	B継続
70	成年後見制度利用支援事業	障がい福祉課	申し立て件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	1 3	件	①3人に対し、成年後見人市長申立てを行った。 ②審判により、成年後見人が選出された。	A順調に進んでいる	①身寄りがいない等で成年後見の申立てを行えない方がいた場合、市長が成年後見の申立てを引き続き行う。 ②身近に支援が必要な方いた場合、関係機関と連携していきたい。	B継続
		高齢者支援課	申し立て件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	9 10	件	①身寄りがいない等で成年後見の申立てを行えない方について、市長が申立てを行った。 ②9人に後見人がつき1名に保佐人がついた。	A順調に進んでいる	①身寄りがいない等で成年後見制度の申立てを行えない方がいた場合、市長申立てを引き続き行う。 ②身近に支援が必要な方がいた場合、関係機関と連携していきたい。	B継続
71	市民後見人の育成	高齢者支援課	参加人数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	0 10	人	①市民後見人養成講座に10人が参加した。(全4日間:9時~17時) ②成年後見人制度の周知につながった。 参加者の理解が向上したが、同講座のカリキュラムを充実させる必要や、受講した方たちが、実際に市民後見人の活動をしていくうえでの体制を整える必要がある。	D実施方法も含め改善が必要である	①修了後の活動について検討が必要である。 また、成年後見制度と同様に周知を行う。 ②成年後見制度への理解を深めるために、多くの方に研修会へ参加していただきたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
取組内容 23]制度の利用促進につながる本人や家族への支援										
72	日常生活自立支援事業の充実と利用促進	社会福祉協議会	相談受付件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	19 17	件	①金銭管理に不安があり、成年後見制度を補完するサービスとして、本事業の利用相談に対応した。生活支援員養成研修会に5名参加し、市内関係機関連絡会を1回開催した。 ②新規相談17件、契約者相談・訪問調査延べ回数231件。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①事業内容の周知のため、社協だよりやホームページ等で本事業の啓発に努める。また、市役所・地域包括支援センター、基幹相談支援センター等福祉関係者への啓発に努める。 ②ホームページ、チラシ等で啓発を行っていくので、金銭管理で困っている方がいたら、社会福祉協議会につなげていただきたい。	B継続
			利用契約件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	15 11	件	①利用契約者11名(高齢者、障がい者) ②特になし	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①契約者の金銭管理について、安心した暮らしが送れることができるよう、今後も事業を継続して行く。 ②特になし	B継続
			生活支援員数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	10 10	人	①千葉県社会福祉協議会主催のリモート研修会に生活支援員5名が参加。その後、情報交換会を開催した。 ②生活支援員の資質向上につながった。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①生活支援員の資質向上及び情報共有等のため研修会の実施 ②特になし	B継続
73	家族に対する支援	高齢者支援課	開催回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	4 4	回	①認知症予防や脳トレーニング等の講座を4回実施した。 ②介護の悩み・ご自身の体調のことを互いに相談し、リフレッシュする機会になっていた。	A順調に進んでいる	①事業中止期間の個別相談ができる日を周知していく。 ②介護についての意見交換や情報の共有、リフレッシュができるので周知してほしい。	B継続
		社会福祉協議会	在宅介護者のつどい等の開催回数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	6 11	回	①在宅で要介護状態の家族を介護している方の、リフレッシュ事業と介護相談等を毎月1回開催した。8月は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため参集での開催をせずに、登録者に対し熱中症対策のチラシ等を送付した。また、登録者へ在宅介護の悩みや参加したいつどい内容などのアンケートを実施し、登録者40名の状況把握に努めた。 ②在宅介護者のリフレッシュにつながる情報提供ができた。介護の悩みを共有し合える場を提供できた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①新型コロナウイルス感染症の影響もあり、開催内容を限定している。感染状況に配慮しつつ、多くの登録者が参加できるよう開催内容を検討し啓発に努める。また、引き続きアンケート等を実施し、登録者の状況把握に努めていく。 ②広報誌等で在宅介護者のつどいについて周知しているので啓発の協力をお願いしたい。	B継続

No	事業名	担当課	事業の成果を表す指標	年度	実績値	単位	①令和4年度に実施した事業 ②どのような成果があったか	令和4年度の評価	①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと)	今後の方針
施策10 虐待防止を進めます《重点施策》										
取組内容 24]虐待防止の推進										
74	高齢者等の虐待防止等権利擁護の取組の推進	健康福祉部	相談件数(社会福祉課)※高齢者及びDVの相談	R3 R4 R5 R6 R7 R8	30 28	件	①虐待を未然に防止するため、関係機関と連携しながら対応した。 ②虐待の発生防止をすることができた。また、虐待が発生した場合は関係機関に迅速につなげることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①虐待の発生防止のため、関係機関とより緊密に連携していく必要がある。 ②虐待が疑われる場合は情報提供をお願いしたい。また、支援を必要とする人に対して、地域での見守りをお願いしたい。	B継続
		男女共同参画室	相談件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	73 65	件	①女性のための相談等の実施。 ②相談を踏まえ、市の相談窓口につなげることができた。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①相談者の抱える問題を解決に導くため、引き続き相談業務を行う。 ②DVIについての意識啓発を行い、困難を抱える人について市民同士が相談先についての知識を持っていただきたい。	B継続
75	児童虐待防止対策等地域協議会による関係機関との情報交換等	こども総合相談室	実務者会議、個別支援会議数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	133 108	回	①児童虐待防止に向けた関係機関の連携を図るため、実務者会議を定期的開催し、関係機関で情報共有、役割分担について検討を行った。 ②104回の個別支援会議を実施し、関係機関で情報共有、役割分担について検討を実施した。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①支援対象児童の増加や問題が複雑化しているため、効果的な会議の運営方法について検討の必要である。 ②虐待が疑われる家庭がある場合情報提供をお願いしたい。また支援が必要な家庭に対して、地域での見守りをお願いしたい。	B継続
76	養育支援訪問事業	こども総合相談室	訪問延件数	R3 R4 R5 R6 R7 R8	238 316	件	①子育てに不慣れで不安を持ちながら子育てをしている家庭など、養育支援が特に必要な家庭を訪問して、養育に関する相談指導を行うとともに、保護者の育児、家事等の育児負担軽減に伴う支援を行った。 ②昨年度に比べ訪問件数が大きく増えており、子育てに不安を抱える保護者の養育に関する相談や、育児負担の軽減を図った。	B概ね順調だが、不十分な点が少しある	①産後うつ等の養育者の体調面や多胎児の養育等、育児への不安を抱える家庭も増加していることから、引き続き、支援が必要な家庭を早期に把握し、迅速な相談支援などを実施するとともに、その家庭が地域から孤立しないよう、関係機関との連携が必要である。 ②地域で孤立している方や子育てに不安や悩みを抱えている方がいた場合には、連絡をお願いしたい。 また、支援が必要な家庭に対して、地域での見守りをお願いしたい。	B継続